

0734

頁五之第



南支支那軍内情ニ端

五四三八



昭和十四年五月  
波集団司令部

社

印

0735

極秘

南支那軍内情ノ一端

昭和十四年五月  
波集團司令部

## 第一 判決

南支方面ノ敵軍ニ關シ俘虜ノ言及諸情報ハ一樣ニ補充、補給ノ窮乏ト  
 裝備ノ劣悪竝長時日ニ亘ル山地内作戰ノ爲戰意著シク喪失セルヲ傳フ  
 ルモ四月作戰ニ於テ實際ノ戰場ニ現ハレタル抵抗力ハ必スシモ輕視ス  
 ルヲ許ササルモノアリ

之レ中層級幹部ノ抗戰意志旺盛ナルト督戰ニ依ル強制的手段ニ負フ所  
 ナルモ教育訓練ノ成果モ亦認めサルヲ得サルモノアリ

## 第二 編制、裝備

一 俘虜ノ言ニ依ル編制裝備ノ實情

第一五一、一五七、一五九師等ニ就キ編成裝備ノ實情ヲ調査スルニ

隙號ノ存在ハ概ネ編成表ノ如キモ其内容ハ區々ニシテ且貧弱ナリ  
 兵員亦定員ニ比シ著シキ缺員ナリ

砲	迫撃砲	重機	手榴弾	連			人員	區分	編制裝備實情一覽表
				輕機	小銃	輕機			
		一營三四			支給數 二五〇	九	一二五名	定員(定數)	
火砲(10)速射砲(20) ヲ有スル師アリ		?	各人 二—三	二、〇〇〇	一〇〇—二〇〇	五—六	八〇名—五六	實員(數)	
	團三四一六ヲ有スルモノアリ	別ニ團二六一八ヲ有スルモノアリ			補充ナキニ依ル		既教育兵ト補充兵トノ比率 二ト八ナリ	摘要	

## ニ補充ノ情況

兵員ノ缺數ハ大ナルモ之カ補充ハ強制的ニ極力實施中ニシテ三月以降ニ於ケル補充實數左表ノ如シ

而シテ其補充員モ從來下層級ノ無教育者多カリシニ比シ近來ハ強制徵集ノ爲教育アルモノヲ選ヒ其素質ハ向上シアリ

月 四 至 月 三 自

備考	一五三	一五九	一五五	一五四	一五七	一五二	一五一	師號	廣東軍各師兵員補充表
一、此外ノ各師兵員補充數不明 二、各師ハ一千名ヨリ甚シキハ五千餘名ニ及フ缺員モアリ 之ヲ補充方ニ苦慮シアリ	一、五六二	二、八六二	五五八（尙近々六〇五名ヲ補充）	二、〇〇〇	八三四	一、二五九	二、一五〇	補充數	

第三 給 養

給養ノ實情ハ極メテ劣悪ナリト雖モ之レ支那兵ノ生活様式上大ナル苦  
痛ニアラサルヘシ

然レトモ此點ハ宣傳、利用等ニ於テ見逃スヘカラサル點ナリトス

イ 給 與

二等兵 一六一八元 一等兵 一一二元 上等兵 一三三元

下 士 一四元 中 士 一六元 上 士 二〇元

以上ヨリ食費トシテ六一八元（第一五一師ハ七、二元）補助費

一、五元 革靴費〇、四元ヲ差引クヲ以テ手取りハ殆ト無ク且右

給與モ一月頃以來未受領ノ狀況ナリ

ロ 被 服

入隊時夏、冬衣袴各一、軍帽一ヲ給セララルモ爾後補給無ク且其  
他ノ下着類等ハ總テ自辨ナリ

### ハ食糧

食糧ハ總テ現地徵發ニシテ其内容ハ將校ト下士官以下ニハ著シキ  
差違アリ兵ハ一日二食（八時及十六時）ニシテ飯ハ十分ナルモ副  
食物ハ殆トナク一連ニ對シ一日ノ副食物代ニ、五元一二、八元ナ  
ルヲ以テ單ニ臭ヲ嗅ク程度ナリ  
（俘虜ニ日本兵食ヲ給セシニ美味ナリト喜ヒ五―六杯喰ヒ止ム所  
ヲ知ラス）

第一線ニ於ケル食糧ハ常ニ炒米（糯イノ如キモノ）ヲ携行スルモ  
ノノミニシテ副食物ナシ故ニ戦闘二日以上ニ及ハハ疲勞大ナルモ



ノノ如シ

炊事ハ後方十支里以上離隔シテ行ヒ第一線ニ於テハ絶對ニ行ハス  
最近ハ現地物資ノ不足ヨリ一層困窮シ殆ト芋ヲ以テ補フ狀況ニシ  
テ食糧徴發隊ヲ遠ク第一線ノ前方ニ派遣シ入手ニ努メアリ以テ深  
刻ナル食糧難ノ狀況ヲ推察スルコトヲ得ヘシ

ニ慰問品、加給品等

直轄ノ中央軍ニハ時トシテ配給セラルル由ナルモ雜軍乃至保安隊  
等ニハ思ヒモ寄ラサル所ナリ

第四 指揮官以下ノ能力、戰意

一 上級指揮官

上級指揮官ノ能力ハ實情ヲ把握スルノ資料ナキモ作戰上ニ現ハレタ

ル所ヨリ判断シ全ク問題トスルニ足ラス只保身ノ爲上官ノ命令ヲ最  
少限ニ實行シアルニ過キサルカ如シ

### 二 中級指揮官

中級指揮官ハ實ニ支那軍ノ中堅ヲ爲スモノニシテ其抗戰意志、實行  
力共ニ最モ優ルモノアルカ如シ

團長自ラ第一線ニ馬ヲ進メ我方彈雨ノ下ニ部下ヲ叱咤激勵セルカ如  
キ或ハ峻難ナル山地内ニ於テ常ニ命令ヲ忠實ニ實行シ抗戰シアルカ  
如キハ看過スヘカラサル點ナリ

捕虜トナリシ將校ノ傲然タル態度ニ於テモ之ヲ窺ヒ得ヘシ

### 三 下級指揮官

下級幹部ノ能力ハ戰場ニ現ハレタル所殆ト見ルヘキモノナク抗戰意

志亦大ナラサルカ如シ只強制的要求ニ對シ最少限ノ行動ヲ爲シ或ハ  
任務ニ對シ虚偽ノ報告ヲ以テ保身ニ努メアルヲ窺ハシム

## 四兵

俘虜ノ言ニ依レハ缺員補充難ノ結果同一部隊内ニ數省ノ壯丁混合シ  
言語習慣ヲ異ニシ出身別ニ依ル反目深刻ニシテ隊ノ團結頗ル不良ナ  
ルモノアルカ如シ

又戰意喪失シ日本軍ニ降リテ郷ニ歸ルヲ希望シ己ムヲ得サレハ日本  
軍ノ傭兵タランコトヲ希望シアルモノ少カラス數次ノ脱走ヲ企テ銃  
殺トナリシモノアリト、然レトモ其反面ニ於テ戰意極メテ強硬ニシ  
テ肉弾戰ヲ以テ守地ヲ守リ或ハ捕虜トナル直前自爆シ或ハ捕虜訊問  
ノ際斷シテ口ヲ開カサルモノ相當數アリ

## 第五 戦闘力

四月作戦ニ於ケル敵ノ抵抗力ハ從來ニ比シ著シク頑強ニシテ各戰場ニ於テ最後ノ肉弾戦ヲ以テ敵ヲ撃破セル場合極メテ多カリシハ特異ノ點ナリ

其原因ハ我軍ハ地形ノ關係上多クノ火炮ヲ有セサリシト總テ敵ノ背後ヲ遮斷シ奇襲急襲ニ依リ窮鼠猫ヲ喰ミシモノアリト雖モ第六ニ述フルカ如キ原因亦輕視スルヲ許ササルヘシ

ノ某歩兵聯隊長ノ體驗ニ依レハ支那軍陣地ニ對シ我カ砲彈若クハ擲彈筒ヲ撃チ込メハ直ニ彼ハ退却スト考ヘアル者アルカ如キハ甚タ大ナル誤リニシテ必ス最後ノ肉弾戦ヲ敢行セサレハ撃破スルヲ得ス

2. 四月上旬西江沿岸作戦ニ於テ江門附近ノ一高地ヲ占領セル敵約五十

ハ我カ山砲射撃及飛行機ノ爆撃ヲ以テスルモ容易ニ退却セス已ムナク藤田支隊配屬ノ輕裝甲車中隊段列ノ兵員、小隊長以下十三名ノ肉彈突撃ニ依リ漸ク此ヲ撃退セリ

3. 四月中旬増城北方ニ作戰セシ久納兵團ハ敵ニ對シ殆ト三千ニ垂ントスル大打撃ヲ與ヘタリ

而シテ戰鬪ハ常ニ壯烈ナル肉彈戰ニシテ我カ損害百數十ノ中其六、七割ハ手榴彈創ナリ

茲前項増城北方戰鬪ニ參加セシ某步兵聯隊ハ惡天候ヲ冒シ嶮難ナル山地ニ於テ夜襲ニ次クニ夜襲ヲ以テ奮戰セシモノナルカ其受ケタル將校以下ノ損害ニ於テ又敵ノ頑強サニ於テ從來遭遇セシ中支ニ於ケル如何ナル場面ヨリモ又バイアス灣上陸ヨリ廣東入城迄ノ如何ナル戰

闘ヨリモ甚シキモノアリ

5. 敵ハ我ヲ劣勢ト觀、弱點ナリト看做スル時ハ意想外ノ威力ヲ發揮シ勇敢ニ逆襲シ來レリ之レ支那軍ノ常習ナリト雖モ今尙戰意アルヲ窺ヒ得ヘシ

#### 第六 敵ノ攻勢部署

支那軍攻勢ノ部署ハ四月作戰ノ結果ニ鑑ミルニ種々特異ノ點ヲ認め得ルモ細部ニ關シテハ別ニ研究スル所アリ今之カ主要ナル事項ヲ摘記スルニ左ノ如シ

一 全力ヲ以テ決戰ヲ求ムルコトナキモ各方面ノ敵ハ一途ノ目的ヲ以テ相互ニ策應セリ

ノ四月六日拂曉全正面ノ敵一樣ニ我各地ノ警備隊ヲ攻撃シ來レリ

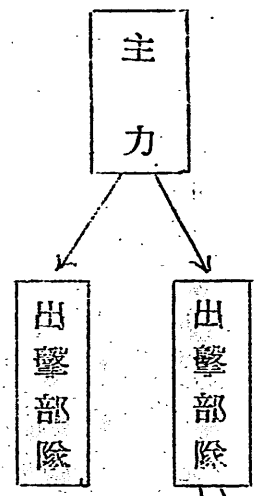
二十二日附余漢謀ノ攻撃命令ハ主力ヲ以テ増城、從化間ノ地區ヨリ  
攻撃シ第六十二、第六十三軍及各游撃隊ハ我兵力ノ轉用ヲ牽制ス  
ル爲北、西北及東南三正面ヨリ我第一線ノ警備隊ノミヲ攻撃セシ  
メアリ

ニ主力ノ攻撃ヲ山地ニ選定シアリ

之レ劣悪裝備ナル爲ト守勢ニ立ツ際持久性アル地形ヲ選ビタルモノ  
ニシテ平素ノ訓練ニ於テ準備セル所ナリ

ニ攻撃ハ主力ヲ後方ニ止メ一部ヲ出撃セシメアリ

本部署ヨリ見ルモ主力ノ消耗ヲ防キ其保存ニ努メアルモノト思ハル



主力ハ其消耗ヲ防クト  
 共ニ督戦監視ノ任ヲ有  
 スルモノナラン

1. 旅長ノ指揮スル一團  
 2. 一師ヨリ一乃至二個ヲ  
 出ス

殺敵隊 { 目的明カナラサルモ奇襲決死隊  
 又ハ潜入シ暗殺等ヲ策スルモノナラン

游撃隊 { 一遠乃至一斑ニシテ潛入シテ我カ後方ノ交通ニ通信ノ破壊及擾亂シアルカ如シ



四 命令ハ徹底、不徹底、積極、消極ノ差異アルモ必ス實行ス

A 情報ニ現ハレタル敵ノ命令ハ數日後ニハ必ス其片鱗或ハ全貌ヲ現ハセリ

五 督戰ハ各師内ニ於テ主力之ニ任スルノ外所屬異ル部隊ヲ以テ之ニ任シアリ

第六十師カ第五百十四師内ニ在リテ赤腕章ヲ附シ督戰ニ任シ或ハ第五百十九師カ主力ヲ増城方面ニ使用シナガラ一部ヲ第八十七師（西北方地區）内ニ混シアリシカ如キハ之レナラン

六 各部隊行動ノ統制ハ同一師内ニ於テハ概ネ良好ニ實施セラレアルモ師ヲ異ニスルニ從ヒ協同連繫ハ不良ニシテ其間ニ幾多ノ缺陷ヲ暴露セリ

之ヲ要スルニ敵ハ能ク自己ノ弱點ヲ知リテ部署ヲ定メ命令實行ハ消極ナカラモ遂行セラレアリ

而シテ主力保存ノ爲攻撃徹底ヲ欠クモ督戰ニ依リ一部ノ行動ヲ強制シアルヲ以テ潛入、攪亂或ハ決死隊的行動ハ勇敢ニ實施セラレアリ

#### 第七 敵戦力保有ノ原因

一 噓構宣傳ニヨル民衆志氣ノ振作

「デマ」ノ巧妙ニシテ盛ナルコトハ敢テ再言ヲ要セサル所ナルモ本事變ニ關スル馬鹿々々シキ「デマ」モ無智蒙昧ナル支那民衆ニハ甚タ有效ニシテ「日軍ノ崩壊近キニアリ」「我ハ近ク廣東ヲ奪還ス」等ノ宣傳ハ自軍ノ勢力範圍内ニ於テハ民衆ノ志氣ヲ振作シ此等烏合ノ衆ヨリ成ル保衛團、稅警團、游撃隊等ノ雜軍ハ素ヨリ正規師ト雖

モ新募ノ補充兵多キ第十二集團ノ如キハ其宣傳・效果大ニシテ弱兵ヲ  
轉シテ強兵トナスモノナリ

### ニ 精神教育

敵軍ニ於ケル精神教育ハ勿論抗日教育ニ徹底シ某部隊ノ如キハ毎日  
二回精神教育ヲ實施シ以テ敗戦ニ依リ沮喪セントスル志氣ヲ鼓舞シ  
ツツアルモノノ如シ、最近ニ於ケル訓話ノ一例

「民國人ノ生クル道ハ唯抗日アルノミ、民國ノ廣大ナル土地ハ既ニ  
其大半ヲ日本軍ノ爲蹂躪セラレタリ民國人ハ此等失地回復ノ爲ニハ  
生命ヲ賭シテ戦ハサルヘカラス而シテ最後ノ勝利ハ吾人ニ耀クコト  
ヲ信セヨ

### 三 訓練

新兵トシテ正規軍ニ編入セラルルヤ概ネ三ヶ月ノ訓練ヲ實施スルヲ

原則トシ特別ノ事情ナキ限り實行シアリシモノノ如シ

最近ニ於ケル重要訓練項目

1. 山地ニ於ケル戰鬪法

2. 夜間戰鬪特ニ拂曉攻撃（少クモ週二回）

而シテ今次攻勢ノ重點カ増江、流溪水ノ中間地區タル山地帯ニ指向  
セラレタルコト竝ニ到ル所強靱ナル夜間戰鬪ヲ惹起セル點ハ如實ニ  
之ヲ示スモノニシテ注意ヲ要ス

必勝ノ信念ノ徹底ニ就テハ支那軍幹部モ大ニ努力シアルモノノ如ク  
又其徹底モ良好ナルモノアルヲ看取セラル、支那軍第一線部隊ノ強  
靱性ハ其素因一ニ此點ニアルヲ思ハシム

左ニ二、三ノ嘉例ヲ舉ク

ノ四月攻勢ニ於テ獲タル捕虜ノ訊問（該捕虜ハ炊事兵、輸送兵等

下級士兵ニシテ能力低キモノナリ）

問 才前等ハ日本軍ト戰テ勝テルト思フカ

答 勝テルト思ハネバ戰ヘマセン

問 飛行機モナク大砲モ少クテドウシテ勝テルト思フカ

答 華軍ハ兵器ノ裝備ハ悪イカ兵ハ精神的ニ大ニ日軍ニ優テ居

リマス、加フルニ華國ハ土地廣ク物資豊ニシテ長期抗戰ス

レハ必ス勝利ハ華軍ニアリマス

2. 俘虜ノ言ニ依レハ「南支方面ニ來リタル日軍ハ日本ニ於テ最モ

弱イ兵デアール」ト宣傳シ教育シアリ

## 3. 五月二日 A 情報

第一五一師長ヨリ<sup>66A</sup>長へ増城方面ノ日軍状況報告ノ一節

増城内ノ敵歩兵ハ多クハ敵國新募ノ商人若ハ學生ニシテ戦闘力

極メテ薄弱ナリ

又騎兵ノ大部ハ東北人ニシテ十戸ヲ以テ聯保トナシ徵集サレタ

ルモノニシテ彼等ハ常ニ早く歸國センコトヲ欲シ戦死ヲ欲セス

ト稱シアリ

## 四 郷土愛ニ基ク敵愾心

廣東軍ノ幹部ノ大部ハ廣東人ニシテ其士兵亦南方人（福建、廣東、

廣西省人）ナリ

由來南方人特ニ廣州族ハ自尊心強ク從ツテ排外意識ニ燃エ且好シテ  
 反抗ス又甚タ感激性强クシテ一度憤激スルトキハ一命ヲ投ケ出シテ  
 尙惜マサル決斷ヲ爲ス

而シテ支那民衆ノ國家ニ對スル觀念ハ我國民ト異ナリ國土ヲ侵スモ  
 ノヨリモ寧ロ自己ノ面目ト富ト生命トヲ侵スモノニ極度ノ敵意ヲ以  
 テ對スルノ特質アリ

然ルニ今ヤ皇軍ノ爲彼等ノ郷土ハ蹂躪セラレ豐饒ナル<sup>堯</sup>珠江「<sup>テ</sup>  
 ルター」地帯ニ於テスラ米飢饉ニ惱ミ廣東、石龍等ノ市街地ハ爆破  
 セラレテ慘狀ヲ呈シ住ムニ家ナキ多數ノ民衆ヲ生セリ悲憤慷慨スル  
 亦道理ナリ

兵督戰隊ノ存在ト逃亡防止策

強力ナル敵督戰隊ノ存在ニ關シテ南支方面ニ於テモ夙ニ偵知シアリ  
シ所ナルカ今次四月攻勢ニ於テモ各種戰場ニ於テ散見セラレタリ

二、三ノ例證ヲ述フレハ左ノ如シ

1. 捕虜訊問ノ結果ニ徴スルニ第一線ニ在ル彼等ハ何トカシテ逃亡ノ  
機ヲ得ント欲スルモ督戰隊ノ歩哨ハ何處ニカ潛ミ監視シアリテ到  
底逃レ得ルモノニアラスト述懐スルモノアリ

2. 四月下旬西江右岸作戰ノ一戰場ニ於テ敵ノ督戰隊幹部ラシキモノ  
ハ大膽ニモ我カ面前五、六百米ノ近距離ニ於テ赤旗ヲ手ニシ馬上  
ニ在リテ馳驅シ叱咤激勵其督戰狀況誠ニ目醒シキモノアルヲ見タ  
リト云フ

3. 四月中旬久納兵團ノ増城附近ノ戰鬪ニ於テハ補充團其他ノ雜軍ヲ



第一線ニ充テ正規師ハ第二線ニ在リテ督戰シ然モ重機及輕機ヲ以テ督戰シアルニアラスヤヲ思ハシムル狀況現出セリト云フ  
 敵ノ士兵逃亡防止策ニ腐心シアルハ想像ニ難カラサル所ニシテ其手段ノ數例左ノ如シ

1. 別紙國軍抗戰連坐法ヲ定メ嚴重ナル處罪ヲ以テ各級指揮官動作ヲ規整シ抗戰ニ向ハシム

2. 士兵ニ對シ「各兵ハ日本軍ニ逮捕サレ次第直ニ耳、手足、鼻ヲ削カレ實ニ無慘ナ殺サレ方ヲスル」旨ヲ宣傳ス

3. 逃亡セルモノハ發見次第本人ハ勿論銃殺（密偵ヲ以テ搜索）家族ハ全部手配シテ直ニ逮捕全部是ヲ銃殺ス（俘虜ノ旨）

六 新募兵ハ未タ皇軍鐵槌ノ味ヲ知ラス

敵ハ兵員充足ノ爲多數ノ壯丁ヲ補充セシコトハ前述ノ如シ而シテ此等新募兵ヲ數ヶ月ノ短期教育ヲ以テ第一線ニ立テ皇軍ニ向ハシメアリ、彼等ハ未タ皇軍ノ威力特ニ肉彈戰ノ眞價ヲ喫シアラサルヲ以テ此等無智ノ徒輩ハ敵ノ巧妙ナル僞瞞的抗日精神教育ノ徹底強力ナル督戰隊ノ威力等ト相俟テ「盲蛇ニ怖ス」式ニ勇敢トナルモノナリ

セ 大局ヨリ見テ南支方面ノ皇軍ハ守勢ニ在リ

我カ南支派遣軍ハ常ニ主動ノ地位ニ立テ敵ノ機先ヲ制シテ攻勢ニ出テ敵ヲ擊破シツツアリト雖モ現在ノ態勢ニ在リテハ其行動地域ハ制限セラレ遠ク追撃ヲ行フコトナシ敵モ亦此情勢ヲ看破シツツアルモノノ如シ

四月十六日A情報ニ現ハレタル我カ兵力、配備ニ關スル敵ノ判断左ノ如シ

日軍ハ増城、大平場、三水、虎門ノ外國ニ堅固ニ陣地ヲ構築シ積極的企圖ナシ

鶴山、江門方面ハ支那軍ノ行動ヲ牽制スルモノナリ

即チ大勢ニ於テ我ハ守勢ニシテ彼ハ攻勢ノ立場ニ在リ支那軍ト雖モ攻者ハ勢ヒ盛トナリ志氣振フヲ一般トス

之ヲ要スルニ軍當面ノ支那軍ハ今ヤ崩壞ノ危機ニ直面シアリト雖モ敵ハ萬策ヲ弄シテ之カ對策ニ狂奔シ其成果亦輕視ヲ許サス之ヲ崩壞セシムルヤ否ヤハ一ニ懸リテ軍ノ對策ニ存ス

宜シク作戰、宣傳、謀略ノ緊密ナル協同ニ依リ凡ユル時期凡ユル方面

1940

ニ或ハ表ヨリ或ハ裏ヨリ萬策ヲ盡シテ之カ崩壞ヲ計ラサルヘカラス

別紙

國軍抗戰連坐法

甲 縱的連坐法

1 本連坐法ノ意義――國軍ハ孫總理ノ遺訓ヲ守リ國民革命ヲ完成シ三民主義ヲ實行スルヲ以テ目的トス各將兵ハ正ニ犧牲的精神ヲ以テ敵ト交戦スルニ際シテハ如何ナル危險ニ際會スルトモ戦闘ニノソミ絕對ニ退却スルコトヲ得ス

2 本連坐法ノ適用

- 一 本連坐法ハ戦闘ニ臨ミ退却セントスル士官及兵士ニ適用ス
- 二 各級ノ政治工作人員モ亦本規定ノ適用ヲ受クルモノトス
- 3 本連坐法ノ規定
  - 一指揮官及部下同時ニ退却セル場合

- 1 班長及全班員退却セシトキハ班長ヲ殺ス
- 2 小隊長及全小隊員退却セハ小隊長ヲ殺ス
- 3 中隊長及中隊全員ノ場合ハ中隊長ヲ殺ス
- 4 大隊長及大隊全員ノ場合ハ大隊長ヲ殺ス
- 5 聯隊長ト聯隊全員ノ場合ハ聯隊長ヲ殺ス
- 6 旅團長ト旅團全員ノ場合ハ旅團長ヲ殺ス
- 7 師團長ト師團全員ノ場合ハ師團長ヲ殺ス
- 8 軍長ノ場合亦同シ

二 指揮官退却セサルニ部下全部退却シタル場合

- 1 軍長退却セサルニ全軍官兵齋シク退却シ軍長ヲ戦死セシメタル時ハ所屬師長ヲ殺ス

2 師長退却セサルニ全師團ノ官兵齎シク退却シ師長ヲ戦死セシ

メタル時ハ所屬旅長ヲ殺ス

3 旅長退却セサルニ全旅官兵齎シク退却シ旅長ヲ戦死セシメタ

ル時ハ所屬聯隊長ヲ殺ス

4 聯隊長ノ場合ハ大隊長ヲ

5 大隊長ノ場合ハ中隊長ヲ

6 中隊長ノ場合ハ小隊長ヲ

7 小隊長ノ場合ハ班長ヲ

8 班長ノ場合ハ益班ノ兵ヲ

殺ス

殺ス

本連坐法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

乙 横的連坐法

1 本連坐法ノ意義―國軍ノ各部隊ハ應ニ一致協力唇齒輔車ノ精神ヲ以テ敵軍ト戦闘ヲナスニ當リテハ友軍ト確實ナル連繫ヲ取り互ニ相策應シテ協同動作ノ效力ヲ擧クル様努ムヘシ徒ニ一身ノ安全ヲ計リ敵ニ臨ミテ兵ヲ進メス或ハ實力ヲ保全スル等ノ口實ヲ設クヘカラス

2 本連坐法ノ適用

一本連坐法ハ師團（獨立旅）以上ノ指揮官ニ適用ス

二兩作戰地區ノ地境附近ニ於テハ戰區司令官ニ對シ本連坐法ヲ適用スルモノトス

(一) 師團（獨立旅）

同一戰線上或ハ同一戰場内ニ於テ師團（獨立旅）ト敵軍ト戦闘



スル場合攻防ニ拘ラス例ヘハ或一師（獨立旅）ノ受ケタル犠牲  
 特ニ大ニシテ師長（獨立旅長）カ殉職シ而モ隣接部隊或ハ敵ノ側翼  
 ニ接スル我師團（獨立旅）安全無事ナルトキハ殘存ノ該師團長  
 （獨立旅長）ヲ軍法裁判ニ附ス（戰略上或ハ特別ノ命令アル場  
 合ハ此ノ限ニ非ス）

(二)  
軍

同一戰線上或ハ同一戰場内ノ軍カ敵軍ト戰鬪ヲナス場合（攻防  
 ヲ論セス）若シ某一軍ノ犠牲甚大ニシテ軍長殉職シ而モ左右隣  
 接部隊或ハ敵ノ側翼ニ在ル軍無事安全ナルトキハ軍長ヲ軍法裁  
 判ニ附ス（但シ戰略上或ハ特別ノ命令ノ場合ハ此ノ限ニ非ス）

(三)  
集團軍

同一戦線上又ハ同一戦場内ニ在ル集團軍ノ場合モ亦同シ  
本運坐法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス